

引用文献

- 伊藤ふくお・古山 暁, 2017. 速報 奈良県のムネアカオオクロテントウ. ならがしわ, (172): 1-2.
- 中西康介・松原 豊・青井幸太郎・持田浩治・日高直哉 2016. 外来種ムネアカオオクロテントウを東京都および神奈川県で発見. さやばねニューシリーズ, (21): 58.
- Poorani, J., A. Ślipiński & R. G. Booth, 2008. A revision of the genus *Synana* Pope, 1989 (Coleoptera: Coccinellidae: Coccinellini). *Annales Zoologici*, 58 (3): 579-594.
- 齋藤琢巳・春澤圭太郎・初宿成彦, 2016. 大阪府における *Synana* 属のテントウムシの記録. 月刊むし, (539): 46-47.

(池田 隆 631-8505 奈良市中町 3327-204
近畿大学農学部保全生態学研究室)

【短報】福井県におけるカワラハンミョウの記録

カワラハンミョウ *Chaetodera laetescripta* (Motschlsky, 1860) は河川改修や護岸工事の影響、砂浜海岸の縮小やレジャーによる砂浜利用等の影響で生息環境が悪化し、全国的に絶滅の危険性が高まっていることから、環境省のレッドリストで絶滅危惧 IB 類に選定されている（環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室編, 2015）。近隣の石川県では、本種の生息環境が著しく悪化しているとされるものの、比較的近年の記録があるが（徳本, 2001；石川県野生動物保護対策調査会, 2009）、福井県では 1982 年の記録を最後に確認されていなかった。改訂版 福井県レッドデータブックでは本種は絶滅危惧 I 類に選定されているが、実質的には県内絶滅も懸念されていた（佐々治・斉藤, 1985；福井県安全環境部自然環境課編, 2016）。

筆者らは、福井県北部においてカワラハンミョウを確認したので下記の通り報告する。なお、現状では本種の保全対策が整っておらず、採集圧による絶滅の危険性もあることから、生息地ならびにその環境の詳細な記述は差し控える。



図1. カワラハンミョウ。

- 1ex., 2. VIII. 2017, 岩佐康平採集・保管；1ex., 19. VIII. 2017, 岩佐康平採集・福井市自然史博物館保管 (FCMNH-JI23000)；1ex., 25. VIII. 2017, 梅村信哉採集・福井市自然史博物館保管 (FCMNH-JI23001)；1ex., 26. IX. 2017, 梅村信哉採集・福井市自然史博物館保管 (FCMNH-JI23157 図 1)。

今回カワラハンミョウが確認されたのは、福井県北部の非常に限られた地域であり、砂地やその周辺の道路を歩く姿が複数確認されている。今後、周辺地域を含めた調査の継続によりカワラハンミョウの生息範囲を特定し、個体数のモニタリングを実施するとともに、早急な保護対策の実施が望まれる。

末筆ながら、発表を助めていただいた福井大学教育学部の保科英人准教授、原稿をお読みいただき有益なご助言をいただくとともに、文献をご恵与いただいた石川県ふれあい昆虫館元館長の富沢章氏にお礼申し上げます。

引用文献

- 福井県安全環境部自然環境課編, 2016. 改訂版 福井県の絶滅のおそれのある野生動物. 536 pp. 福井県安全環境部自然環境課.
- 石川県野生動物保護対策調査会, 2009. 改訂・石川県の絶滅のおそれのある野生動物 石川県レッドデータブック (動物編) 2009. 446 pp. 石川県環境部自然保護課.
- 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室編, 2015. レッドデータブック 2014 - 日本の絶滅のおそれのある野生動物 - 5 昆虫類. 509 pp. ぎょうせい.
- 佐々治寛之・斉藤昌弘, 1985. 甲虫目 COLEOPTERA, 79-245 pp. 福井県自然環境保全調査研究会昆虫部会編, 福井県昆虫目録, 404 pp. 福井県.
- 徳本 洋, 2001. 石川県内におけるカワラハンミョウの分布に関する記録. とっくりばち, (67): 2-4.

(梅村信哉 918-8006 福井市足羽上町 147
福井市自然史博物館)

(岩佐康平 918-8006 福井市足羽上町 147
福井市自然史博物館友の会)

【短報】口永良部島におけるシロモンオオヒゲナガゾウムシの記録

シロモンオオヒゲナガゾウムシ *Mecotropis kyusyuensis* (Nakane, 1963) は、四国、九州、五島列島、屋久島、種子島、奄美大島、沖縄島に分布するヒゲナガゾウムシ科の甲虫である（小島・森本, 2004）。筆者の一人である藤本はこれまで記録のなかった口永良部島から本種を採集したので報告する。

- 1♂, 鹿児島県熊毛郡屋久島町口永良部島寝待, 25. VII. 2017, 藤本採集, 飯田保管 (図 1)。

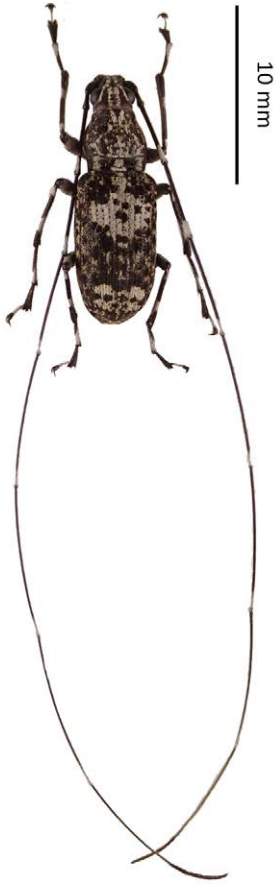


図1. 口永良部島産シロモンオオヒゲナガゾウムシ.

島拓夫, 早坂大亮の両博士に厚くお礼を申し上げる.

引用文献

- 金井賢一, 2017. 口永良部島の昆虫 (2016). 鹿児島県博物館研究報告, (36):15-23.
- 鹿児島県環境技術協会, 2001. 生態系多様性地域調査 (口永良部島公園区域拡張調査) 報告書. pp. 66-72, 環境省請負業務, 鹿児島.
- 小島弘昭・森本 桂, 2004. 日本産ゾウムシ上科のオンライン目録とデータベース. 九州大学総合研究博物館研究報告, (2):33-147.
- 佐々木健志・木村正明・河村 太, 2002. コウチュウ目 (鞘翅目). pp. 157-284. In: 東 清二 監修, 屋富祖昌子・金城政勝・林 正美・小濱継雄・佐々木健志・木村正明・河村 太編, 増補改訂琉球列島産昆虫目録. 沖縄生物学会, 西原.

(飯田恭平 631-8505 奈良市中町 3327-204
近畿大学農学研究科生態系管理理学研究室)

(藤本将也 739-8528 東広島市鏡山 1-4-4
広島大学生物圏科学研究科水圏資源生物学研究室)

【短報】岡山県におけるサメハダマルケシゲンゴロウとオオマルケシゲンゴロウの初記録

サメハダマルケシゲンゴロウ *Hydrovatus stridulus* Biström, 1997 (以下サメハダと記す) は稲畑 (2016) により奄美大島と沖縄島, 石垣島, 西表島, 与那国島から国内で初めて記録され, その後本州や小浜島からも記録された (渡部ほか, 2016; 渡部・保科, 2016; 渡部, 2016; 吉村・渡部, 2017; 戸田, 2017). 本州における分布は, 現在のところ石川県, 福井県, 愛知県の記録のみが知られているが, 琉球に分布していることや石川県における過去のマルケシゲンゴロウ *Hydrovatus subtilis* Sharp, 1882 の記録の多くがサメハダであったことから, 本州および四国, 九州の広い範囲での発見が期待されている (渡部, 2016). オオマルケシゲンゴロウ *Hydrovatus bonvouloiri* Sharp, 1882 (以下オオマルケシと記す) は本州西部, 四国, 九州, 南西諸島に分布しており (Biström & Watanabe, 2017), 中国地方においては他に山口県と島根県での記録が知られているが (相本, 2012; 林, 2012), 岡山県からは記録がない (山地, 2012). この度, 筆者らはサメハダとオオマルケシを岡山県で初めて確認したため, 記録する.

サメハダマルケシゲンゴロウ *Hydrovatus stridulus* Biström (図1)

1♀, 倉敷市粒江種松山, 27. VIII. 2017, 末長採集, 渡部保管; 2♀♀, 同所, 9. X. 2017, 末長・山地採集・保管.



図1-2. 岡山県産サメハダマルケシゲンゴロウ (1) とオオマルケシゲンゴロウ (2) .